第4回桑名市地方創生会議 会議概要

日時・場所	平成 27 年 10 月 28 日（水） 13：00～14：30 桑名市役所本庁舎 3階第二会議室
出席者	委員 10名 市 4名 事務局 4名（三重大学1名） 傍聴 12名
会議次第	1. 開会 2. 市長あいさつ 3. 事項 (1) パブリックコメント実施結果について (2) 桑名市人口ビジョン（仮称）案について (3) 桑名市まち・ひと・しごと創生総合戦略（仮称）案について 4. その他 5. 閉会
概要 （主な意見）	3. 事項 <ul style="list-style-type: none"> ・桑名市がジュニアサミットの開催地となったことにより、「桑名市」が世界デビューすることとなる。そこで、桑名市民が桑名に誇りを持って発信していくことが出来るように環境を整えることが重要である。 ・まちを活気づけるプロモーションを考え、観光客の増加を図ることも大事である。 ・予算とは関係なく、行政が持っている方向性として、桑名市内（桑名市特有の産業、稼ぐ力のある産業）の産業に力を入れるという意味で、商店街の活性化に力を入れることが重要である。 ・商店街の後継者として、若者を入れることが商店街の活気ある将来につながる。これからは、今までよりも様々なイベントを開き、人を集める（後継者も含め）ことも考えるべきである。 ・転出入の数を安定させるためには、衰退していく桑名の基盤産業をしっかり安定させることが重要である。 ・桑名駅は近鉄や JR など様々な交通機関が集まっている大きな駅なのにもかかわらず、エスカレーターが無い。エレベーターの場所もわかりづらく、使いづらい。より観光客を増やしていくためには、改善が必要である。 ・誰が来ても「すごい」と思えるように駅（中・外観を含む）を見直

す必要がある。

- ・人は旅行に行くと、行った場所の証拠として、駅前で写真を撮ることが多い。今度国際デビューする桑名だからこそ、駅前の改善が重要である。
- ・女性が活躍する「働きやすいまち」にするためには、介護や子育て支援をしっかりと考えるべきである。例えば、土日や夜間の穴（人手不足など）を埋められる対策を考え、女性の活動範囲を広げることが大事である。
- ・桑名市には、モノづくりの技術があり、基盤もできているが、後継者を育てるための後押しのような施策が必要である。
- ・農業などの地域内需要を増やし、消費するようなサイクルづくりが必要である。例えば、学校の給食に桑名市の特産品などを使い、地域内の消費及び利益の増加を図るなど、一次産業を盛り上げる支援が必要である。
- ・どんな仕事をしていても、どこに住んでいても、地域のものを使い、食すことが地域の利益につながると市民が意識することが重要である。市民全体がつながっていることを意識すれば、互いが困ったときに手助けができ、分かち合えるまちになると思う。
- ・現在の桑名市創生総合戦略には、障害者に対する対策がわかりづらい。障害者が暮らしやすいまち、来やすいまちは、みんなが住みやすいまちであると思う。
- ・社会的弱者がみても、疑問に思わないように、違う角度からの施策の策定が必要である。
- ・【質問】 KPIは何を基準に決めているのか？
【回答】 桑名市総合計画を基に推測した数値を示している。
- ・「働きやすいまち」は、雇用関係や工場だけを意味するものではない。子育てや交通インフラ、労働力の需要・供給、そしてそこで発生するミスマッチを解決することも「働きやすいまち」をつくるにあたって重要である。
- ・OBのように専門的な知識や技術を持つ人が活躍できる場をつくることも大事である。
- ・まちの現状を把握し、企業間の人材マッチング（アレンジ）を行政が行い、適所に適材が活躍できるように支援を行うことも「働きやすいまち」に近づく方法である。
- ・桑名市が世界デビューをしようとしている現在、海外にどのようなイメージを与えることが出来るのかを考えるべきである。そのと

き、桑名市民が何を誇りにしているのか、心のよりどころはどのような物なのかを検討することが重要である。

- ・市民がみんなで頑張れるもの、「桑名といえば、これ」のように共通して誇りに思えるものがあると良い。これが、桑名市民がアウトバウンドする際に重要なものになる。
- ・魅力あふれるまちにするためには、まず、人を集めないといけない。常にイベントを開催し、人が集まるようなきっかけづくりが大事である。
- ・都市の美化（美しい景観）も重要なポイントである。海外は電線を見えないように工夫をしているところが多い。
- ・昔に比べ、移動がしやすくなった今、中高生が外に出ても桑名を思い出せるような誇りを市民が作り上げる作業が大事である。
- ・交通インフラを含め、桑名に人を受け入れる体制を作ることが最も重要である。そのため、駅とその周辺の改善は、とても大事である。
- ・桑名市に女性が輝く場所があることを、もっとアピールしても良い。住みやすさを一番実感しているのは女性だと思う。女性が輝く社会、男女が一緒にまち・ひと・しごと創生総合戦略を作り上げることをもっと意識した方が良い。
- ・プロモーション活動と桑名ブランドという施策が、抽象的である。
- ・「まち・ひと・しごと」のまちの部分はよく理解ができるが、「ひと」と「しごと」の部分に対する施策が弱いと思う。子供や障害者、高齢者を意識した対策がわかりづらい。
- ・「働きやすいまち」に関する施策に、働いている人の視点を入れるべき。職場をつくるだけでなく、仕事ができるような環境整備に力を入れるべきである。
- ・いろいろな方がいろいろな角度からみて、納得がいくような対策になるように、読み手の立場になって書き方を工夫したり、施策を考えることが重要である。
- ・子育てを楽しく行い、イベントの企画をしたり、ブログに載せたりする若いママも多い。イベントに関する情報や参加方法をより知らせれば、「住んでみたいまち」として認識されやすくなる可能性がある。
- ・市民自らが、「住んでみたいまち」、「住み続けたいまち」にするために行動を起こすことが最も重要である。
- ・住民発のイベントを様々な手段で発信し、「育児しながら」、「仕事しながら」など、「～しながら」生活を楽しむことが出来るまちになれば

	<p>ば、「住みたいまち」に近づくとする。</p> <ul style="list-style-type: none">・国内及び国際交流は数ではなく、活動内容を重要視すべきである。数だけあって、活動をしていなければ意味がない。それを行政はどのように支援するかを考える必要がある。・市民がより簡単にまちの情報が知れるように、行政がラジオなどを利用することも良い。
担当課	市長公室 政策経営課